

## 分担研究:未婚女性の妊娠に関する意識調査

研究分担者 杉浦真弓 名古屋市立大学大学院医学研究科教授  
研究協力者 尾崎康彦 名古屋市立大学大学院医学研究科准教授  
研究協力者 北折珠央 名古屋市立大学大学院医学研究科助教

### 研究要旨

未婚女性の 91%が子供を持ちたいと考えていたが、不妊症、流産の頻度を正確に把握していたのはたったの 10.5%であった。さらに自分が自然妊娠できる年齢について 36.4%の女性が 45 歳から 60 歳までと答えた。不妊症、流産は加齢とともに増加するが女性たちが自身の妊娠能力を過信することで起こっていることも考えられる。正しい知識の啓発によって女性の加齢による不妊症、流産を予防することは急務である。

### A. 研究目的

不妊症は約 15%、流産は約 15%の頻度で起こるが、女性たちはそのことを知らずに直面して初めて「まさか自分に子どもができないなんて」とショックを受けている。女性の社会進出の伴い、妊娠高齢化、少子化が進んでいるが、女性の加齢と共に不妊、流産が増加するという知識がないため、仕事を中心とした人生設計を立て、避妊した時間のために結果的に子どもを持つことができなくなっている女性も少なくないという日常診療の中で感じる。未婚女性たちの妊娠に関する知識不足を明らかにし、啓発によって不妊症、流産を予防することを目的とした。

### B. 研究方法

名古屋市立大学学生(臨床講義前)、名古屋女子大学学生、日本産科婦人科学会女性の健康週間参加者 249 人の独身女性を対象とした。平均年齢は 25.2(6.8)歳。後述の自記式質問表に解答してもらった。本研究は名古屋市立大学倫理委員会の承認を得た。

### C. 研究結果

未婚女性の 95.5%が結婚を希望しており、91%がいつか子供を持ちたいと考えていた。96.8%が結婚後も仕事を続けたいと考えているが、25.7%が出産後は仕事を辞めたいと考えていた。46.2%、67.9%、40.6%の女性は結婚、仕事、子育てについて自分自身で考えていた。

不妊症については 98.8%が知っていると思えたが、

不妊頻度、流産頻度を正確に選択できたのは 44.2%、17.3%のみであった。これらの知識について学校(20.7%)や親よりメディア(85.9%)から知識を得るものが多かった。

さらに自分が妊娠できる年齢について 36.4%の女性が 45 歳から 60 歳までと答えた。

結婚観、職業観、育児観をもつものは有意に不妊知識をもっていた。しかし、知識をもつものは有意に自分の出産年齢を遅く設定していた。

### D. 考察

内閣府の調査では子どもをもちたいと考える若者が 50%に満たないと報道された。これは質問の仕方によると考えられる。先進国の女性はキャリアのために結婚、出産を先送りにする傾向があり、さしあたって今、子どもがほしいかと聞かれればいらないと答えるが、いつかほしいか、と聞かれれば 91%が希望しているというのが現実である。いつか子供を持ちたいと考える女性が 91%ということは少子化対策から考えれば、喜ばしい結果であるが、彼女たちが生殖可能年齢を知らないことは問題である。

不妊症や流産はそれぞれ約 15%の頻度であり、女性の加齢と共に明らか増加するにもかかわらず、近い将来子供を持ちたいと考える女性たちがその知識に乏しく、いくつになっても出産できると誤解している現状が明らかになった。

平均年齢 25 歳の未婚女性は仕事を持ち、子供を持つことが標準的未来像と考えていた。未婚女性は

主にメディアから生殖の知識を学んでいたが、不妊症、流産の頻度について選択問題にもかかわらず正解できたのはたったの 10.5%であった。

不育症患者が流産のショックのために避妊した、あるいは不妊症患者が不妊に気がつく前に仕事などの理由によって避妊していることは日常診療の中で多くの産婦人科医師が経験している。

日本人女性は月経のメカニズム、避妊について月経発来前の小学5年生頃、中学・高校家庭科、保健体育、生物で学習する。しかし、それらの教科書を見ても「バースコントロール」「女性の生む権利」に触れてある教科書は存在しているも、「子供ができない人がある」ことに触れている教科書はめったに存在しない。

ある高校家庭科の授業では「豆腐をうすく切って油で揚げると油揚げができる」と教えているが、おあげの作り方を知ることと不妊・不育を知ることと人間が生きていくうえでどちらが重要な知識であろうか。

年間 110 万人の子どもが生まれる一方、20 万人の子どもが流産し、少なくとも 140 万人の不育症患者（既往も含め）が存在する。不妊症も含めれば膨大な「子どもに恵まれないカップル」が存在するのである。

流産、不妊症の知識を正しく教科書に書くことが、誤った知識によって生殖適齢期を失う患者を救うことに直結する。

## E. 結論

日本人未婚女性の 91%がいつか子供をもちたいと考え、98.8%が不妊症を知っていると答えたが、36.4%が間違った生殖可能年齢の知識しか持っていなかった。

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

Sugiura-Ogasawara M, Ozaki Y, Kaneko S, Kitaori T, Kumagai K. Japanese single women have limited knowledge of age-related reproductive time limits. *Int J Obstet Gynecol* 2010. 09(1):75-6.

## 妊娠に関する意識調査

名古屋市立大学では未婚者たちの結婚・妊娠に対する意識調査を行っています。知識を問うテストではありませんので思ったままお答えください。また、なるべく順番に答えていただいて、前の質問に戻らないようにしてください。

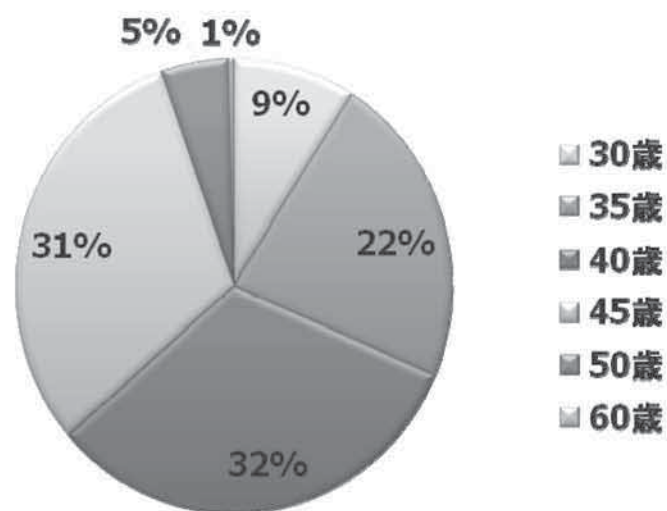
ご協力をお願い申し上げます。

名古屋市立大学医学部教授 杉浦真弓

- あなたの年齢・性別・学部をお答えください。 ( )才・性別( )・学部( )
- あなたは結婚したいと思いますか。
  - 結婚したいと思わない。
  - 結婚するかもしれない。
  - いつか必ず結婚する。
- あなたは自分自身の結婚観について考えたり悩んだりしたことがありますか。
  - 考えたことがなかった。
  - 親や世間一般の考えを受け入れていた。
  - 自分で考え悩んだ。
  - 不明
- あなたは自分自身のお仕事についてどのように考えていますか。
  - 重要だとは思わない。
  - 自分の人生に重要だと思う。
  - 不明
- あなたは自分自身の職業観について悩んだり考えたことがありますか。
  - 考えたことがなかった。
  - 親や世間一般の考えを受け入れている。
  - 自分で考え悩んだ。
  - 不明
- あなたは仕事をいつまで続けたいと思いますか。
  - 結婚するまで。
  - 出産するまで。
  - 出産・育児の間休業して、その後も仕事をしたい。
  - 生涯、仕事を続けたい。
  - 仕事はしたくない。
- あなたは将来子供を持ちたいと思いますか。
  - まったく持ちたいと思わない。
  - どちらかというを持ちたいと思わない。
  - どちらかというを持ちたいと思う。
  - 必ず持ちたいと思う。
- あなたは出産・育児についてどのように考えておられますか。
  - 重要だと思わない(関心を持っていない)。
  - 自分の人生に重要だと思う。
  - 不明
- あなたは自分自身の出産・育児について悩んだり考えたことがありますか。
  - 考えたことがない。
  - 親や世間一般の考えを受け入れていた。
  - 自分で考え、悩んだ。
  - 不明



## あなた自身はいくつまで 自然に妊娠できると思いますか？



**37%が45-60歳と答えた!!!**

## 研究成果の刊行に関する一覧表

### 雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Sugiura-Ogasawara M, Ozaki Y, Kaneko S, Kitaori T, Kumagai K.	Japanese single women have limited knowledge of age-related reproductive time limits.	Int J Obstet Gynecol	9	75-76	2010